

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	びーす・あけび		
○保護者評価実施期間	2025年 4 月 1 日	～	2026年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 7名	(回答者数)	6名
○従業者評価実施期間	2025年 4 月 1 日	～	2026年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3 月 20 日		
○分析結果			
	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	少人数での受け入れのため、一人ひとりのペースにそって活動メニューをとりいれられる。子どもたちが楽しく通所することができている。	様々な障がいの状況に応じた活動メニューを考え、子どもたちが楽しく過ごすことができるように取り組んでいる。子どもたちの様子を見ながら、日々どんなことをすれば刺激を受けることができ、楽しんでもらえるのかを考えながら取り組んでいます。	ご家庭や学校などと情報共有をしながら、こどもたちが成長していく上でどんな活動をすればよいのか考えていきたい。子どもたちがどんな事に興味を持ち、身体面を維持・向上することができるのか、今後もいろいろな情報を取り入れながらより良い支援ができるように職員間で話し合いを進めていきます。
2	給食の提供と特殊浴を使つての入浴の受け入れが可能	長期休暇時や学校が休みの時に給食の提供を行っている。必要に応じて極刻み食やミキサー食を準備させていただいている。入浴については定員数はあるがご希望の場合対応することができる。特殊浴による入浴が可能のため座位が取れない場合でも漏船に浸かっていただくことができる。	給食の提供については食べやすいように食事形態を個々に応じて提供するように行っていく。入浴については必要に応じて看護師と一緒に安全に入浴していただく。
3	法人で生活介護事業所と相談支援事業所が併設されており、移行期にはスムーズに情報共有することができる	相談支援事業所とはタイムリーに利用者や家族状況を情報共有することができる。また利用者や職員同士お互いが知る機会を設けることができ環境の変化が少ないため、移行する際にスムーズに行うことができる。	今後も法人内だけでとどまらず、こどもたちの世界を広げられるように各関係機関と連携を取りながら支援に努めていきたい
	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動の様子などを送迎時に口頭でお伝えすることはできているが、視覚的情報の提供ができておらず、ご家族の方にはイメージしにくい状況になっている。発信力に乏しい。	SNSを利用する際の細かいルール作りやホームページの活用ができていない	ご家族の同意取りながら書面(通信)やホームページを活用しながら言葉だけではなく写真などを使って発信できるようにする
2			
3			